

『中小・零細企業のための利益最大化戦略』  
～儲かっている会社実践するシンプルな利益の方程式～



川口 宏之（かわぐち ひろゆき）  
公認会計士  
コンサルタント

■ 想定する対象者

- ・業績悪化に歯止めをかけたい経営者さま
- ・競合との値引き合戦や顧客の奪い合いに疲れてしまった経営者さま
- ・会社にお金がなかなか貯まらない、とお悩みの経営者さま
- ・漠然とした会社経営の不安を抱えている経営者さま
- ・とにかく儲けたい！とお考えの経営者さま

■ コンセプト/メッセージ

大企業の業績は回復傾向にあるみたいですが、イマイチ景気の実感がわからないという企業の方が多くはないかと思います。毎年の最低賃金の引上げで人件費は膨らみ続けるものの、それを吸収できるだけの売上増加が伴わないというのが、多くの中小・零細企業の実態かと思っています。そんな中、消費税が 8%から 10%に上昇しますので、今後、消費者の財布の紐はますます固くなるでしょう。そんな時代だからこそ、中小・零細企業ならではの経営強化策が急務です。

今から遡ること約 20 年、私は猛勉強の末に取得した公認会計士の資格をもとに、大手監査法人や大手証券会社を渡り歩きました。そこで、さまざまな業種のクライアント企業と接しながら、「業績好調な優良企業は他の企業と何が違うのか」そして「優良企業の経緯者はその他大勢の経営者と何が違うのか」ということを徹底的に研究してきました。その後、IT ベンチャー企業の取締役兼 CFO に就任し、会社の売上を 2 年間で約 3 倍にまで急成長させ、同時に内部管理体制の構築と財務体質の強化を行い、会社の基盤を作り上げることを行いました。

これらの経験を通じて気づいたことは、「**会計をビジネスに活かす**」ことの重要性でした。

優れた経営者は皆、会計数値を客観的に読み解いて経営に活かす術を身につけています。決して会計の専門家ではなくとも、最低限の会計の勘所（ツボ）を心得ているのです。これが優良企業や優秀な経営者の共通項だということに気づきました。そして、会計をビジネスに活かすということを自ら実践し、自社の業績を急上昇させることに成功したことで、その気づきが確信に変わりました。

とはいえ、最初は苦労の連続でした。公認会計士といっても経営に関しては素人同然。公認会計士は財務諸表を作成するための会計基準や会計理論については熟知していますが、財務諸表（会計数値）を経営に活かすことについては何も知らないのが普通です。会計と経営の有機的な関係を、実務を通じて泥臭く学び、体系化していったというのが実態です。

その後、私は、会計専門のコンサルタントに転身し、大企業から中小・零細企業まで、様々な業種

の経営に関与させていただきました。実務を通して培った儲けの法則は、規模の大小を問わず、どんな業種にも有効であることが分かりました。しかも、小難しい会計ルールや会計理論は一切不要！非常にシンプルな利益の方程式から、業績改善の糸口を発見することができるのです。

本講座では、「売上－コスト＝利益」というシンプルな公式から出発し、利益を最大化させる具体的手法を、売上増加策とコスト削減策に分けて、事例を交えながら解説します。また、利益の先にあるキャッシュ（お金）の重要性と、会社にお金を貯める具体的な方法についてもお伝えします。

シンプルながらも意外に気付かないその手法に、「目から鱗が落ちた」という受講者多数。明日から実践してみたくなるワクワクするメソッドが盛りだくさんです。

本講座を通じて、皆様が会計をビジネスに活かす手法をマスターし、必ずや骨太な事業を展開して頂ける事を確信しております。

## ■ 内 容

### 1. 業績向上のため4ステップ

- (1) 優秀な経営者と残念な経営者の違い
- (2) 経営上の不安を解消するためにまずやるべきこと

### 2. 売上増加策

- (1) 売上高を4つの要素に分解
- (2) 要素別！売上向上の具体策
- (3) 値決めの3パターンの使い分け
  - ・コスト積上げ方式
  - ・競合比較方式
  - ・価値比較方式

### 3. コスト削減策

- (1) 同じ売上でもコスト構造で儲けは異なる
- (2) 固定費と変動費の分解
- (3) 景気の動向とあるべき固定バランス

### 4. 会社にお金をためる方法

- (1) 利益とキャッシュの違い
- (2) 法定耐用年数と経済的耐用年数のワナ
- (3) 資金繰り悪化の兆候把握方法と具体的改善策

## ■ 実績

### 【直近の実績】

#### 1. 企業研修

総合商社／情報メディア／電鉄／銀行／新聞／リース／物流／専門商社／食品メーカー／硝子メーカー／プラント／精密機器メーカー／システム開発／金融サービス／半導体メーカー／小売 など多数

#### 2. セミナー・講演

みずほ総研、SMBC コンサルティング、プロネクサス、アビタス、オービック、金融財務研究会、東京商工会議所（世田谷支部、江東支部、北支部）、山口県商工会、埼玉県経営者協会、静岡県労働金庫 など多数

※敬称略

### 【直近のメディア掲載】

夕刊フジ、エフエム浦和、プレジデント、ダイヤモンド・チェーンストア、旬刊経理情報、週刊税務通信、茨城新聞

## ■ プロフィール

川口 宏之 (かわぐち ひろゆき)

すべてのビジネスパーソンにとっての必須スキルである「会計」を、基礎から分かりやすく伝授する公認会計士。受講前は「会計は難しくて苦手」「数字の羅列をみただけで吐き気がする」と言っていた受講者も、受講後は「すんなり理解できた」「驚くほど簡単だった」という感想を漏らすほど、圧倒的な分かりやすさが強みの人気講師。



職歴としては、監査法人での会計監査、証券会社での引受審査、ITベンチャー企業で取締役兼 CFO、会計コンサルタントという4つの視点で「会計」に携わった経験を持つ。

監査法人では、大手信託銀行の自己査定監査を担当し、毎年100社ほどの財務諸表を多角的に分析することによって、「企業の生きた数字の捉え方」をマスターした。また、ITベンチャー企業では、独自の会計思考力を駆使し、就任からわずか**2年で売上高を約3倍**にまで急成長させただけでなく、金融機関からの融資、ベンチャーキャピタルからの資金調達などを次々に実現させ、会社の財務基盤を作り上げた。

2012年から、これまでの知識や経験をもベースにした会計関連の研修・講演活動を開始。特に、決算書の読み方・分析の仕方については、図を使った独自のメソッドが話題となり、これまで延べ1万人近くの会計嫌いの受講者を救ってきた。受講者満足度は、**5段階評価で平均4.8を超える**実績を持つ。

2013年には、そのメソッドをまとめた著書『決算書を読む技術』（かんき出版）を上梓。分かりやすさが口コミで広まり、**2万6000部のベストセラー**となる。発売から5年が経つ現在も売れ続けており、増刷に増刷を重ね、現在は10刷にまで達している。

欧米と比べると、日本では、会計（アカウンティング）に対して苦手意識を持っているビジネスパーソンが驚くほど多い。そのため、ビジネスパーソンの会計スキルが向上すれば、日本企業の価値が向上し、ひいては日本経済の持続的成長に繋がる、という信念のもと、「会計」をテーマにした講師活動、執筆活動を精力的に行っている。

